

<p>新規就農者の素顔</p>  <p>加温ブドウ新梢の誘引風景（4月）</p> <p>氏名：加門 英樹（かもん ひでき）          住所：兵庫県神崎郡神河町          年齢：31歳</p>	<p>農業経営の現状（現在）</p> <p>農地：150a（借地20a）          施設：ビニールハウス70a、直売所・農機倉庫          経営内容：施設ブドウ（大粒種10品種）70a          水稲50a等          労働力：父、母、叔父、繁忙期雇用3人          出荷先：直売所にて直接販売</p> 
<p>就農から現在まで</p> <p>2007年4月 兵庫県立大学環境人間学研究科を修了。後に父の始めた果樹栽培に参加。</p> <p>2010年4月 労災保険加入</p> <p>2010年5月 家族経営協定締結、農業者年金加入。</p> <p>2011年8月 狩猟免許（罟）を取得。野猿・ハクビシンの食害が深刻でその備えに。</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p> <p>○ 良かった点          なによりお客様の「美味しい」という一言。疲れが吹き飛び、来年へ向けての活力になる。</p> <p>○ 苦労した点          春先の突風でビニールが破れ、1年間の生活費が吹き飛ぶ程の損害が出た年もあった。天気・病気の不安に加えて鳥獣害の苦労もある。</p>
<p>農業をめざした動機</p> <p>幼いころから自然に関わる職業に憧れていた。家が農家で、稲刈り手伝いなど農業に馴染みがあった。生物学が好きで、農学部バイオ系を受験するが失敗。</p> <p>大学在学中、就職難のためなかなか就職先が決まらない中、かねてから果物栽培が趣味であった父が、早期退職しブドウ栽培を本格的に始めた。</p> <p>親子してベテランのブドウ直売農家に師事、「ブドウ栽培は儲かる。直売でやっていける有利な品目である。きっちり作れば必ず食うていける。」と背中を押され、不安を抱えながらも生産に加わる。生活が出来る収入を安定して上げる目標に向かって精進している。</p>	<p>後輩へ贈る言葉</p> <p>私の場合、当時まだ手探りの段階ではあったものの、親の始めた地盤の上で就農できた点は、非常に恵まれていたと思います。</p> <p>災害に見舞われたり、大きな失敗をした際は、生来の精神面の脆さもあって一層ショックも大きいですが、逆にそれを成長の種とポジティブに捉え直し、気分を切り替えるよう心がけています。</p> <p>縁あって、先駆的なブドウ栽培家と懇意になり、色々とお世話になっております。いつでも相談できる信頼できる「師匠」や仲間を持つことは、技術面だけでなくメンタル面で大きな支えになります。孤立は避け、厚いヨコの繋がりを築き、それを大事にして下さい。</p>